

## お鋤山 植物たより (H27. 7. 16)

ブドウが出回りはじめました。ヨーロッパブドウとアメリカブドウを改良してつくられたものだそうです。身近に散歩で見るブドウはエビヅルとノブドウです。エビヅルは全体が円錐のように見える花のつき方をします。

(円錐花序) 実のつき方は、通常食べているブドウと全くおなじ房状ですが、だいぶ小型です。食べる事もできます。ノブドウは傘が開いたような形



エビヅル

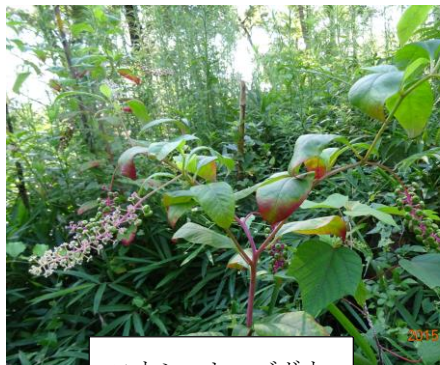


ノブドウ

で花や実がつきます。(集散花序) この実は食べられません。これらは、お鋤山でも見る事ができます。掲載の写真は市道沿いに自生しているものです。エビヅルは擁壁にぶらさがっていました。ノブドウはノイバラと混在して大群落をつくっています。いずれも花は淡緑色で小さな花を多数つけますが、全く目立ちません。花とともに実もつきはじめています。

ヨウシュヤマゴボウも身近に見る事ができる野草です。お鋤山でも各所に自生をしていますが、掲載の写真は中央広場で撮ったものです。花とともに実もつけています。高さが1.5以上にもなり、遊歩道の散歩にはじゃまつけです。花は赤みを帯びた白色の花を多数つけ、果時には垂れ下がりますが、黒く熟した実は赤紫色の汁を含み、衣服に付いたら大変です。散歩のときは気を付けましょう。

縁起物として利用のマンリョウ、センリョウ (H25. 12. 10 掲載) が小さな花をつけています。



ヨウシュヤマゴボウ



マンリョウ



センリョウ